令和2年度　学校評価表 【自己評価】

三次市立甲奴小学校

経営理念（ミッション・ビジョン）
・よりよく積極的に生きるための基盤として「郷土を誇りに思う心」を育て，地域や社会に貢献しようとする意欲や態度をもった人材を育てる。
・変化の激しい社会の中で，グローバルな視点をもち，国籍や互いの立場の違いを超えて，協調し協働して生きていくことができる力をつける。
〇育てたい資質・能力：「活用力」「対話力」「乗りこえる力」「思いやり」

＜学校教育目標＞
すすんで　きたえ　みがき　のびる
～社会の変化に対応できる心豊かでたくましい子どもの育成～
＜めざす学校像＞
〇すすんで ・・・・・・・・・・・・・・・・子供の主体性を伸ばす学校
〇きたえ・みがき・・・・・・・・・・・個々の持ち味を発揮させる学校
〇のびる・・・・・・・・・得意なことを引出し，自信を持たせる学校

＜甲奴中学校区のめざす子供像＞
「ふるさと甲奴を誇りに思い，主体的に学ぶ子供」
＜甲奴小のめざす子供像＞
☆自分が好き・・・夢（目標とする姿）を持ち自ら進んで最後までねばり強くやりぬく子供
☆友だちが好き・・・友だちのよさを見つけ，自ら進んで一緒に働き，遊び，学ぶ子供
☆甲奴が好き・・・身の回りに目を向け，甲奴のよさを見つけ自ら進んで表現できる子供

評価計画							自己評価								学校関係者評価	
	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	指標（効果を見とる目安）【担当】		目標値	7月 達成値	7月 達成度	7月 評価	12月 達成値	12月 達成度	12月 評価	結果の分析	改善策	評価	コメント
確かな学力の育成	活用力　対話力　乗り越える力　思いやり」を育てる 全国水準の学力をつける（知識・技能，思考力・判断力・表現力，学びに向かう力の育成）	〇基礎的・基本的知識・技能の習得と定着	・相互に授業を見合い，児童が主体的に学び合えるよう授業改善を行う ・外国語活動の単元づくりの手法を他教科に生かす研修による授業改善を行う	・評価テスト(国語・算数)で得点が期待平均点を超える児童の割合【石川】	国語	75%	76.0%	101%	A	82%	109%	A	2学期以降も引き続き，外国語以外の教科でも単元ゴールを意識し，授業に取り組むことができた。また，定着を図るため，単元末等，データベース等を活用し多くの問題に取り組ませることもできた。その際，苦手な単元や個に応じて習熟度別の問題にも取り組ませることによって，意欲を継続させることができた。基礎的・基本的知識・技能の習得と定着については，概ね達成できている。	基礎的・基本的知識・技能の習得と定着は，概ね達成できているが，活用問題には課題が見られるため，主体的な学習を行うことができるよう，中学年の複式学級の授業を参考にリーダーが授業を進めていく授業形態を行っている学級が増えてきた。学級実態に応じてリーダーを中心に授業を進めて行ったり，ペアやグループを活用した児童主体の授業を取り入れ，更なる学力の定着を目指していく。		
					算数	70%	74.0%	105%	A	79%	113%	A				
		〇対話のある授業づくりによる思考力・判断力・表現力の育成	・英語活動・外国語活動・外国語科において，目的・場面・状況を明らかにした「対話」の場面を設定する授業づくり及び授業実践を行う	・児童アンケートの「思考・判断・表現」に関する項目の肯定的評価の割合【石田】		75%	97%	129%	A	97%	129%	A	「思考・判断・表現」に関する項目の肯定的評価の割合は，全体としてよく達成できている。しかし，高学年は他学年と比べ，「英語でのやり取り」に関する項目への回答が低くなっている。	児童同士の「英語でのやり取り」が続けられるよう，学年に応じた表現を引き続き研究していく。今後は，コミュニケーションを行う「目的や場面，状況等」を明確にしたやり取りの設定を行い，「やり取り」に関する振り返りを取り入れ授業改善を行っていく。		
		〇学びに向かう力の育成	・外国語活動・各教科において，児童の学習状況を適切に評価し授業改善，教育課程改善につなげる	・「課題発見・解決学習」単元における単元末の振り返り（単元末の学習の振り返りにおいて，粘り強さや積極性，学び方を工夫しようとする態度）の肯定的評価の割合 ・指導者による学習に取り組む態度の見取りの肯定的評価の割合【梅田】		75%	90%	120%	A	91%	121%	A	7月に引き続き12月も，結果としてよく達成できている。細かく見ていくと，指導者は1年・3年たんぽぽ・5年，児童は5年のアンケート結果が上がった。一方，指導者は2・4年，児童は2・6年のアンケート結果が下がった。結果として，児童のアンケート結果が下がり，指導者のアンケート結果が上がり，全体としては少し上がった。	「課題発見・解決学習」単元をはじめとする授業において，自ら学び方を工夫しようとする態度が身につくよう，発達段階を考慮し授業改善に取り組む。また，職員研修で「課題発見・解決学習」単元で「導入」を交流し合い，ゴールイメージの共有に向けた授業改善を今後も引き続き行っていく。また，家庭学習・自主学習に主体的に取り組めるよう指導を行い，自ら学びに向かう力を育成する。		
豊かな心の育成	規範意識を高め，思いやりの心を育成する	〇規律ある学校生活 あいさつ 無言掃除 無言集合	・一斉下校，朝会時等における全体指導 ・挨拶は，「いつでも・どこでも・だれにでも」を徹底する ・月ごとにテーマを決めて児童会掲示板を利用し，友だち同志相互評価する	・「あいさつ・無言掃除・無言集合」に関する生活アンケートで肯定的に自己評価する児童の割合，及び教職員の見取り調査【長手】		85%	97%	114%	A	97%	114%	A	7月同様に指導者と児童の評価に差が見られた。指導者と児童がともに課題と捉えている事は，挨拶を「自分から」することに課題がある。掃除は，集合時間も早く，無言でできる様になったが，終了時間より早く終わる児童がいる。無言集合は，全体が集まる時にその都度指導したので概ねできている。	挨拶は，「あいさつの じ・だ・い」を合言葉に今後も指導を継続する。「自分から」に課題が見られるため，1月に短期集中的に取り組み，掲示板に花や葉をはり，成果や課題が一目で分かる取り組みを行う。無言掃除については，今後は時間いっぱいする事，特に終了時刻を守らせる。無言集合は，引き続き肯定的評価を行っていく。		
						85%	78%	91%	B	75%	88%	B				
		〇思いやりの心の育成	・ふわふわ言葉の常態化をめざす生活指導 ・道徳の時間の充実 ・縦割り班遊びを通して異学年との関わりを深める	・「思いやりの心」に関するアンケートで肯定的に評価する児童の割合【小田】		85%	95%	111%	A	97%	114%	A	児童は肯定的評価が高く，思いやりの心をもった児童が増加してきている。「にこにこボックス」の活用や道徳科での指導により，友達に対して思いやりの心をもってきたと考える。しかし，新型コロナウイルス感染症の拡大により，縦割り班活動の機会が減少し，他学年との関わりが希薄化している。	新型コロナウイルス感染症予防対策のため，縦割り班活動や合同レクなど他学年との交流の場を設ける事は困難であるが，「にこにこボックス」の肯定的評価の放送を，低・中・高と分けて，その内容を異学年の良い所見つけとして，他学年同士でお互いを認め合う場とする。また，最高学年を中心に合レクなど他学年交流の機会を，感染症予防対策を取りながらできる範囲で設ける。		
				・「思いやりの心」育成に関する教職員アンケート結果（4段階評価の平均値）【小田】		85%	76%	89%	B	72%	84%	B				
健やかな体の育成	自ら目標をもち，進んで体力の向上，健康の保持増進に取り組む意欲・態度を育てる	〇体力の向上	・外遊びの推奨 ・毎週月・水・金曜日にランランタイム（業間運動）を設定し，月の最終金曜日に縦割り班遊びを実施 ・水泳記録会，マラソン大会，縄跳び検定の自己目標の設定	・新体力テストの分析に基づく取組の結果，平均値を上回る項目の割合【長手】		70%	測定不能	測定不能	判定なし	57.0%	81%	B	本年度は，縦割り班遊び・ランランタイムを実施してないため，児童の持久力低下が見られた。マラソン大会に向けて短期集中的に取り組んだが十分ではない結果となった。児童の目標もかなり高い目標を設定しており，目標の指導が十分ではなかったため，達成度が低下している。また，外遊びの奨励は各担任が指導しているが，学年・個人差があり体力向上に結びついていない。	今後も天候や新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえつつ，週1回水曜日に全校で外遊びを行い，室内に閉じこもりがちな児童が固定化しない様に取り組む。また，3学期は縄跳びを中心としたランランタイムに取り組むとともに，縄跳びの自己目標とふり返りの指導を行う。重点課題の立ち幅跳び・50m走については，2種目に的を絞ったサーキットトレーニングを体育科授業に取り入れる。新体力テストの結果は，データを残し来年度の目標にさせる。		
				・自己目標を達成した児童の割合【長手】		85%	測定不能	測定不能	判定なし	78%	85%	B				
		〇健康的で規則正しい生活の実践	・朝食，生活リズムについて全体指導をする ・アンケートによる基本的生活習慣の実態把握	・朝食・生活習慣に関するアンケートで，肯定的に評価する児童の割合【出口・曲田】		80%	朝食97.9% 生活リズム83.3%	朝食122 生活リズム104	A	朝食99.6% 生活リズム83.8%	朝食125 生活リズム104	A	・朝食については，ほとんどの児童が毎朝食べていた。数名の児童が朝食を食べずに登校している日があった。朝食を食べずに登校する児童は，体調を崩しやすい傾向にある。また，課題となる児童が固定化されつつあるため，保護者への啓発が必要である。 ・生活リズムについては，低学年では，就寝時刻がよく守れていた。高学年は乱れがちになる傾向がある。臨時休校中，メディア視聴時間が長くなったり，就寝時刻が遅くなったりしていたと保護者の方からの感想があったように，リズムが崩れていた児童もいたようである。	・朝食については，学校からは，授業や食育便り等を通して，朝食の重要性について啓発していく。また，家庭の協力も必要であるため，課題のある児童については適宜連携をとる。さらに内容にも重視して，バランスの良い朝食となるよう，レシピ等の発行をしていく。 ・生活リズムについては，課題がある児童に対して，個人懇談などで担任から話してもらい保護者の協力を得て改善していくようにする。メディア視聴時間について考えてもらえるような保健便りなどを発行する。また，毎月1回の「ノーメディアデー」の取組を進め，生活リズムの改善を図る。		
信頼される学校	安全・安心で信頼される学校をめざす	〇危機管理の徹底と指導力の向上	・感染症対策を含めた危機管理体制の充実 ・働き方改革による「子どもと向き合う時間」の確保 ・研修等による指導力の向上	・危機管理対策研修を学期に1回以上行う ・危機管理体制について，保護者アンケートでの，肯定的評価【宮本】		85%	98%	115%	A	98%	115%	A	・危機管理対策研修は，月毎の担当が毎月行っている。 ・感染症防止対策は，広島県もレベル2になり引き続き随時国・県・市の指針に基づき，行っていく。 ・保護者アンケートの肯定的評価は97．8%と前回とほぼ変わらなかった。参観日・甲奴フェスタ等の公開を喜ばれる一方，不安を抱かれている保護者もいる。	・今後も，国・県・市の指針に基づき，随時感染症対策を適切に行い，工夫・改善しながら計画的に教育活動を進めていく。 ・保護者が不安を抱かれていることについて，丁寧に対策・取組を行っていく必要がある。今後も子供達の安全を最優先に進めていく。		
				・指導力の向上について，児童・保護者アンケートでの，肯定的評価【宮本】		85%	98%	115%	A	94%	111%	A	保護者アンケートでの「教職員の授業の工夫」は変わらないが，「協力して指導に当たる」と「授業が分かりやすい」という項目で肯定的意見が若干減少している。授業内容で分からないと思っている児童がいることを前提に，今後も「分かりやすい授業つくり」「意欲的・主体的な授業つくり」を行っていく必要がある。	今年度「子どもと向き合う時間」を充実させる時間を取り，現在パワーアップタイム等で組織的に，個別の指導にもあたっている。しかし，まだ十分とは言えない実態もある。今後も学力の定着を図るため，授業改善と個別指導，家庭学習・自主学習など学び方の指導も丁寧に取り組んでいく。		

（自己評価）　達成度＝達成値÷目標値　A：100≦（目標達成）　B：80≦（ほぼ達成）＜100　C：60≦（もう少し）＜80　D：（できていない）＜60